三条中

自ら課題を見つけ、主体的に取り組む生徒の育成

～探究的な学習活動を通して～

（２年計画の２年次）

校長名　安田　眞理子

１　研究主題について

現代社会はグローバル化が進み､急速な情報化や技術革新が生活を劇的に変化させて　いる。このような変化の著しい社会の中で、将来を予測することが困難な時代を、子ど　もたちは自分を取り巻く様々な事象に主体的に向き合い、関わり合い、よりよい社会を　自ら創り出していくことが求められている。平成２９年告示の「学習指導要領解説総則　編」では「第１章総説」の中で、「学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に　向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念　的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値をつなげていくこと、複雑な状　況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」と書　かれている。このことから、多様に変化する社会を生きていく生徒に対し、変化に対応　する力、経験から学ぶ力、他者と共に協働的に行動する力が求められることが分かる。　本校では「豊かな心をもち、自ら学び、考え行動できる生徒の育成」を今年度の学校目　標として掲げている。基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、それらを　活用しながら、より深まりのある考え方のできる生徒を育んでいきたいと考えている。

本校生徒の昨年度の学習アンケート結果からは、「学ぶことが楽しい」という肯定的な考えをもった生徒が比較的多いというよい傾向が認められる一方で､「分からなくても質問しない」「発表をあまりしない」という主体性に課題がある生徒も認められた。　また、日常の授業の様子から、自分の考えを整理して表現するといった学習活動に苦手意識があることも感じられる。

そこで、今年度は総合的な学習の時間を中心に既存の学習で得た知識と経験をもとに自ら課題を見つけ対話を通して協働的に学びを進めることにより、思考を深めることの実感を生徒がもてれば､生徒の主体的・協働的な学びが深まり､共に生きる力を育むことにつながると考え、本研究課題を設定した。各教科で習得する「技能や知識」が相互に関連付けられ、状況に応じて適用したり、適切に活用したりできるように「思考力・判断力・表現力等」を育成し、学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力・人間性の取得につながるよう、授業改善とカリキュラムデザイン等について研究を進めていきたい。

２　研究のねらい

主体的に取り組む態度を育成するためには、自ら学ぶ意欲を喚起したり、生徒の心理的欲求を充足したりすることが大切である。「主体的に学習に取り組む態度」を発現させるために、生徒の「問い」を大切に、「学習者の視点」で「問題解決的な授業づくり」を目指す。生徒が解決したい課題を設定できるように、「授業の導入」や「動機付け」の工夫を行う。

３　研究仮説

「探究」を核として、教科と領域との関連を図りながら、生徒の「問い」を大切にした導入を工夫することにより、「自ら学ぶ意欲」が喚起され、自律的な学習過程をたどることができ、主体的に取り組む態度が育まれるのではないか。

４　研究内容

探究的な学習活動を支えていくために、各教科、領域において特に以下の項目を研究する。

(1)　「授業の導入」や「動機付け」を工夫する。

(2)　「学び方」の指導をする。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	校内研・授業の概要　等
4	2	校内研　経営方針・研究主題の共通理解、授業開き、三条中生の「話し方・聞き方」、中教研領域発表会までの取組について
5	19	校内研　防災教育について 講　師：弘前大学教育学部　教授　小岩直人 内　容：「三条中学校区の自然災害の特徴と防災教育」
6	25	校内研　道徳「中教研領域発表授業・道徳」研修会
10	1	中教研「領域・道徳」授業研究 学　年　教　材　名　授　業　者　指導助言者 １学年　捨てられた悲しみ　佐藤多圭志　教諭　高橋英臣（中沢中教頭） ２学年　「桃太郎」の鬼退治　油川　健　教諭　松倉知秀（白銀南中教頭） ３学年　闇の中の炎　工藤　睦深　教諭　大野　勉（市教委指導主事）
11	10	授業研究（計画訪問） 授業研究（要請訪問） 授業者：　夏坂　勝　教諭（３学年、総合的な学習の時間・防災教育） 指導助言：市教委教育指導課　石田　純也 主任指導主事

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
9	8	校内研　三条中生の「話し方・聞き方」に関する生徒アンケートの考察①
9	16	校内研　クロームブック活用法 講　師：本校教諭　田中康友　教諭　油川　健　教諭 内　容：１人１台端末の操作について、はじめての遠隔授業について
10	18	授業参観週間（～10/22）
12	23	校内研　三条中生の「話し方・聞き方」に関する生徒アンケートの考察②
2	18	校内研　次年度の研究主題について
3	17	校内研　三条中生の「話し方・聞き方」に関する生徒アンケートの考察③

６　研究の成果

(1) 道徳科の授業では、市中教研の領域・道徳の授業研究を通して、「考え議論する道徳」を展開していくための学習形態の工夫や発問の吟味等、授業改善に取り組むことができた。同時に全教師で意見を交換することで、研究を深めることができた。今年度の校内研のテーマの一つである導入の工夫について、動画や生徒の実生活に沿ったアンケートを用いる等、道徳的価値への動機付けのための工夫をすることによって、授業に対する生徒の興味・関心を高め、学習意欲につなげることができた。発問については、これまでの３年間、テーマ発問を意識して取り組んできたが、導入の発問と終末の発問を揃えることが考えの深まりにつながるということが確認できた。

(2) 総合的な学習の時間で「防災教育」に取り組んだが、「自助」「共助」「公助」の意識のもと学習を進めていくうちに、全教科に関わる、横断的な学習の要素がとても重要であることを認識できた。探究的な見方・考え方をもち、自ら課題を設定し、主体的に学習に取り組むことで、自分の将来を見つめ、地域や社会の一員であることの意義を考え、積極的に社会に参画しようとする態度を養うことができるということを学ぶことができた。

７　研究の課題

(1) 各教科、各領域の学習内容の特色を生かしながら、指導案の作成や授業改善に取り組んできたが「わかった！できた！身についた！」が実感できる授業を完成することができたとは言えない。今年は特に授業の導入から課題設定までの教師の働きかけの工夫に取り組んできたが、まだ「教師が中心となって課題を設定してしまう」授業が多く見られる、引き続き、導入の工夫に取り組むとともに、総合的な学習の時間を核とした、教科横断的な探究学習に力を入れて取り組むことが必要である。

(2) 「三条中生の『話し方・聞き方』」については、ジョイントスクール推進事業で小学校と連携しながら進めている。小学校で指導されてきたことを土台として、自分の考えを整理して分かりやすく発表する態度を伸ばしたいと考えたが、学年が上がるにつれて不十分になる傾向が強い。生徒の意識の向上のための手立てを工夫したい。

（記入者　夏坂　勝）